

# 週刊センターニュース No.90

第90号(2005年12月19日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)



## 共同学習会が第100回を迎えます。

第100回 日時 12月22日(木) 16:20~17:50

場所 金沢大学角間キャンパス総合教育棟南棟2階大会議室

発表者 田中一郎(共通教育機構長)

テーマ 「特色GPの傾向と対策 - 審査員の立場から - 」

概要 平成17年度文部科学省特色GP第2審査部会委員を務められた経験から、本学における教育改革をどのように進めていくべきか、提言をしていただく。各部署のFD、教務担当教員を中心に、積極的な参加を期待したい。

## 文部科学省委託事業「教員の所属組織」に関する調査研究、いよいよスタート

この度、金沢大学は、文部科学省の「先導的大学改革推進委託」の委託先の1つに選定され、本学の大学教育開発・支援センターが受け皿となって、委託事業を推進することとなり、その第1回会合を、去る11月29日に開催しました。

本委託事業のテーマは、「今後の『大学像』の在り方に関する調査研究：教員の所属組織」です。

委託事業の趣旨は、以下の通りです。

我が国高等教育政策において、教員の所属組織に関し、大学設置基準から「講座制/学科目制」にかかる規定を削除し、代わって、各教員の適切な役割分担と連携の確保に関わる規定を整備する方向で文部科学省内の作業が進んでいます。この新たな制度は、平成19年度からスタートすることが予定されています。

本事業は、そうした制度改正を受け、これまで制度化され運用されてきた「講座制」の総括を行うとともに、平成19年度以降、各大学が、自主的・自立的にその教育研究目的に適った「教員の所属組織」を編成・再編していく上で有効と考えられる諸課題を対象に調査検討を行いその成果を公にすることを通じて、関係者の便宜に供することをその趣旨とするものです

本委託事業は、下記のメンバーで実施されます。

青 野 透	(金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)
鹿 野 勝彦	(金沢大学 教務担当理事・副学長)
柴 田 正良	(金沢大学 文学部教授)
高 田 重男	(金沢大学 医学系研究科教授)
田 川 久之	(金沢大学 総務部企画課課長)
轟 亮	(金沢大学 文学部助教授)
西 山 宣昭	(金沢大学 大学教育開発・支援センター助教授)
早 田 幸政	(金沢大学 大学教育開発・支援センター教授)
堀 井 祐介	(金沢大学 大学教育開発・支援センター助教授)
山 崎 光悦	(金沢大学 自然科学研究科教授・学長補佐)

以上、学内関係者(五十音順) は、事業実施会議体の主査。

工 藤 潤	( 大学基準協会	大学評価研究部企画・調査研究系主幹)
清 水 一 彦	( 筑波大学	人間総合科学研究科教授)
夏 目 達 也	( 名古屋大学	高等教育研究センター教授)
羽 田 貴 史	( 広島大学	高等教育研究開発センター教授)
秦 由 美 子	( 大阪大学	大学教育実践センター助教授)
八 尾 坂 修	( 九州大学	人間環境学研究院教授)
渡 辺 達 雄	( 広島大学	高等教育研究開発センター C O E 研究員)

以上、学外関係者(五十音順)

週刊センターニュースでは、本委託事業に係る調査研究の状況を、今後とも随時お伝えしていく予定です。(評価システム研究部門 早田)

## 『人をつなぐ・未来をひらく 大学の森 - 里山を「いま」に生かす(朝日・大学パートナーズシンポジウム)』参加報告

12月17日(土)に開催された標記シンポジウム(主催:金沢大学、龍谷大学、朝日新聞社)に参加したので簡単に紹介する。

林学長の挨拶で始まったこのシンポジウムは、キャンパス内に里山を持ち、学生らの研究だけでなく市民との交流の場としても活用しているという共通点を持つ本学と龍谷大学を、テレビ会議システムで結んで開催されたものである。朝日新聞のウェブサイト

[http://mytown.asahi.com/ishikawa/news.php?k\\_id=18000000512180003](http://mytown.asahi.com/ishikawa/news.php?k_id=18000000512180003)

によれば、「大雪にもかかわらず、金沢会場には約180人が参加した」。まず、霊長類学者の河合雅雄・京都大名誉教授が基調講演で、西欧の人々の森との付き合いを紹介しながら、「川遊びのように森を利用して遊ぶことができるはずだ」と話された。続く両会場間でのディスカッションでは、本学の中村浩二教授が「市民団体や行政が行っている里山保全を、教育機能を担う大学が拠点としてまとめるべき」と話されたことが印象的であった。すでに角間ランチョンセミナーの実践報告でも指摘されておられたことだが、本学が角間に移転したことをプラスの視点からとらえ、現代の若者に対してこそ、里山という自然環境を貴重な学びのフィールドとして活かしていくことができるはずだ、との信念は、参加者にはっきりと伝わった。他の大学には無い本学の環境をどのように“隠れたカリキュラム”として意識していくか、否応無く、本学の教職員に課題として突き付けられたといえる。(教育支援システム研究部門 青野 透)

## 第2回専門分野別教育開発セミナー開催報告

12月11日(日) 当センター主催で第2回専門分野別教育開発セミナー「文系基礎とコア・カリキュラム」を開催した。参加者32名を得て、講演、報告に基づく活発な議論が行われた。神戸大学大学教育推進機構教授・学長補佐の川嶋太津夫先生による基調講演「学士課程カリキュラムの在り方：専攻を超えて」により、学士課程カリキュラム改革の近年の動向について明快なフレームワークを得たうえで、鏡味先生、東川先生による本学文学部、法学部での専門基礎についての検討の経過やご意見に対して、活発な議論が行われた。平成20年からの3学域下での人間社会学域の共通コア設定を念頭においた議論であったが、今後の継続的な議論の必要性を認識するとともにおぼろげながらいくつかのコアの内容について意見が出たように思う。今後の議論の展開に期待したい。なお、当日の配布資料がありますので、ご希望の方は西山(nnishiya@ge.kanazawa-u.ac.jp)までご連絡ください。学内便にてお送りいたします。(大学教育開発研究部門 西山)

## 寄贈本の紹介

『世界の教員養成Ⅰ アジア編』(2005年9月、日本教育大学協会)

『世界の教員養成Ⅰ 欧米・オセアニア編』(2005年9月、日本教育大学協会)